

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年8月25日

## 【評価実施概要】

|       |                                     |       |             |
|-------|-------------------------------------|-------|-------------|
| 事業所番号 | 0870101607                          |       |             |
| 法人名   | 株式会社 四方建築設計事務所                      |       |             |
| 事業所名  | グループホーム ぐるんぱの杜                      |       |             |
| 所在地   | 茨城県水戸市大串町116-4<br>(電話) 029-240-5678 |       |             |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 認知症ケア研究所                  |       |             |
| 所在地   | 茨城県取手市井野台4-9-3 D101                 |       |             |
| 訪問調査日 | 平成20年7月25日                          | 評価確定日 | 平成20年11月12日 |

## 【情報提供票より】(平成20年6月27日事業所記入)

## (1)組織概要

|       |                 |                      |      |
|-------|-----------------|----------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 15 年 7 月 1 日 |                      |      |
| ユニット数 | 2 ユニット          | 利用定員数計               | 18 人 |
| 職員数   | 16 人            | 常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算 | 人    |

## (2)建物概要

|      |        |     |       |
|------|--------|-----|-------|
| 建物構造 | 鉄骨 造り  |     |       |
|      | 1 階建ての | 階 ~ | 1 階部分 |

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |                    |                |       |
|---------------------|--------------------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額)            | 40,000 円           | その他の経費(月額)     | 円     |
| 敷金                  | 有( 円)              | 無              |       |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( 300,000 円)<br>無 | 有りの場合<br>償却の有無 | 有/無   |
| 食材料費                | 朝食                 | 円              | 昼食 円  |
|                     | 夕食                 | 円              | おやつ 円 |
|                     | または 40,000 円/月     |                |       |

## (4)利用者の概要( 6月 27日現在)

|       |           |         |         |    |      |
|-------|-----------|---------|---------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名      | 男性      | 8 名     | 女性 | 10 名 |
| 要介護1  | 1 名       | 要介護2    | 7 名     |    |      |
| 要介護3  | 6 名       | 要介護4    | 2 名     |    |      |
| 要介護5  | 2 名       | 要支援2    | 0 名     |    |      |
| 年齢    | 平均 83.4 歳 | 最低 74 歳 | 最高 94 歳 |    |      |

## (5)協力医療機関

|         |                                 |
|---------|---------------------------------|
| 協力医療機関名 | 東前病院 ・ 篠原医院 ・ 青柳病院 ・ 大串歯科 ・ 湊歯科 |
|---------|---------------------------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市街地から離れ、自然環境に恵まれた場所に位置している。庭のフェンス沿いに、ひまわりが植えられている。畑には、利用者と共に野菜をつくり、収穫しその野菜が食卓に並ぶ。年々収穫の量が多くなって、利用者や職員の楽しみになっている。ホームは近くの小学校の通学路になっているため、朝晩のあいさつが利用者の楽しみにもなっている。管理者・職員は、利用者が生き生き生活できるよう努力され、サービスの向上に向け取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

|       |  |  |
|-------|--|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)         | 地震災害について職員と話し合いマニュアル作成を試みた。訓練については、今後考えていきたいと思っている。備蓄品について、準備され、職員に保管場所を周知されている。地域活動については、小学生やその家族のボランティアが来所するまでに、働きかけをしてきた。 |
|       | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)                  | 管理者、職員が項目ごとに話し合い、作成した。   |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)   | 運営会議が定期的に行われている。会議内容は、職員にも伝達され、意見の共有化に努め、サービスの向上につなげている。   |
|       | 重点項目③  | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)  |
| 重点項目④ | 面会に来るごとに、生活の様子を報告している。「ぐるんぱの杜新聞」を作成し、送付している。 |  |
|       | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)                     | 地域のバザーに参加させてもらっている。小学生の体験学習の場として、受け入れている。また、「ぐるんぱの杜新聞」を回覧させて頂き、ホームを理解していただくように心がけている。  |

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| <b>I. 理念に基づく運営</b>    |    |   |   |      |                                   |
| 1. 理念と共有              |    |   |   |      |                                   |
| 1                     | 1  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 地域の中でその人らしく、笑顔と安らぎのある暮らしを過ごせるように事業所の理念をつくりあげている。                        |      |                                   |
| 2                     | 2  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 職員の採用時には管理者から理念を理解してもらうように伝えている。管理者、職員は理念を大切に、利用者が穏やかに生活できるよう心がけている。    |      |                                   |
| 2. 地域との支えあい           |    |   |   |      |                                   |
| 3                     | 5  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 自治会に加入して行事に参加している。小学生の通学時には朝の挨拶をしている。事業所のイベントに地域の方々が参加していただくように呼びかけている。 |      |                                   |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |   |   |      |                                   |
| 4                     | 7  | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 前回の評価を、管理者・職員が改善に向けて出来るところから取り組んでいる。                                    |      |                                   |
| 5                     | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営会議が定期的開催されている。地域の方、小学校の校長先生、家族の代表、職員等が参加して、意見を頂きサービスの向上に努めている。        |      |                                   |

| 外部              | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)           |
|-----------------|----|--|---|------|---|
| 6               | 9  | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | 手続き等で市役所に出向いていき、事業所を知ってもらおう機会としている。緊急の一時的入所の連絡の相談を受けることもある。                     |      |   |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |  |   |      |   |
| 7               | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている                              | 金銭管理については毎月送付している。時々面会に来る方に対しては、職員が話したり、介護日誌を見ていただいている。状態の変化があるときには、その都度報告している。 |      |   |
| 8               | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | 面会に来たときに意見をもらい、管理者・職員はカンファレンスし改善に心がけている。苦情箱への苦情はまだ投函されていない。                     |      |   |
| 9               | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 異動はほとんどない。退職希望の場合には、徐々に事実を伝えて、受け入れてもらえるように支援している。                               |      |   |
| 5. 人材の育成と支援     |    |  |   |      |   |
| 10              | 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | 研修に参加したときには報告書で職員に伝達している。   | ○    | 今後さらに外部研修、内部研修の参加を促し、ケアの向上につなげていけることを期待したい。 |
| 11              | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 地域カンファレンスに参加し、同業者の交流に努めるようにしている。事業所の見学交流がある。                                    |      |   |

| 外部                                 | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>         |    |  |  |      |                                   |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応          |    |  |  |      |                                   |
| 12                                 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 体験入所のサービスがある。体験入所し、そのまま入所へ移行している。家族からの相談はいつでも受けるようにしている。                             |      |                                   |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援          |    |  |  |      |                                   |
| 13                                 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                      | 方言や料理の味付け等教えていただいている。利用者とお互いによりよく生活できるように、心がけている。職員は、いつも同じ立場に立つように考えている。             |      |                                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |  |  |      |                                   |
| 1. 一人ひとりの把握                        |    |  |  |      |                                   |
| 14                                 | 33 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 管理者・職員は一人ひとりの思いや希望を、柔軟に対応できるように努めている。また、家族も含めて考えるようにしている。                            |      |                                   |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し     |    |  |  |      |                                   |
| 15                                 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している        | 職員のカンファレンスの意見を参考に、計画を立案している。身体のアセスメントも変更・追加等踏まえながら、作成に役立てている。計画は、家族に意見を聞き、サインを頂いている。 |      |                                   |
| 16                                 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している    | 計画の見直しが見やすく、記録されている。計画の見直しは、職員で話し合い、修正・追加されている。                                      |      |                                   |

| 外部                                 | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                      | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)         |
|------------------------------------|----|---|--|------|---|
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>           |    |   |  |      |   |
| 17                                 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                             | 同系列のデイホームと協力して夏祭りなど開催して柔軟な対応をしている。                                   |      |   |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |    |   |  |      |   |
| 18                                 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | 出来る限り利用者のかかりつけ医の受診支援をしている。緊急時の往診が可能である。状態が悪化時、医師と電話での連絡ができるようになっている。 |      |   |
| 19                                 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 家族、利用者の希望があれば受け入れをしている。訪問看護ステーションの協力を得て、ターミナルの支援をしている。               |      | ターミナルについてのマニュアル作成を期待したい。職員間の統一を図って行ってほしい。 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>   |    |   |  |      |   |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>             |    |   |  |      |   |
| <b>(1)一人ひとりの尊重</b>                 |    |   |  |      |   |
| 20                                 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 職員が一人ひとりに丁寧な言葉かけを心がけている。記録等は事務室内にきちんと保管されている。                        |      |   |
| 21                                 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | 散歩に誘ったり、思い思いの生活を大切に過ごされている。出来る限り利用者の希望に沿った対応が出来ている。                  |      |   |

| 外部                                   | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| <b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b> |    |   |  |      |                                   |
| 22                                   | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 一人ひとりの状態に合わせて調理方法を変えている。利用者の力に合わせて準備や片付けなど支援できている。利用者がお互いに気を使って、家庭的なかかわりが見られている。時々家族が面会にこられた時は、一緒に食べることもできる。 |      |                                   |
| 23                                   | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 基本的に時間帯が決まっているが、希望に添える体制がある。   |      |                                   |
| <b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b> |    |   |  |      |                                   |
| 24                                   | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者同士でちぎり絵など教えあったりしている。家族からの情報を基に、楽しみごとなど出来るように支援している。   |      |                                   |
| 25                                   | 61 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | 通院の帰りにドライブに行ったり、フリーマーケットに買い物にいったりと戸外に出かける支援を心がけている。  |      |                                   |
| <b>(4) 安心と安全を支える支援</b>               |    |   |  |      |                                   |
| 26                                   | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 鍵はかけていない。見守り、行動を共にして支援している。  |      |                                   |
| 27                                   | 71 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | 避難訓練は定期的に行われている。災害時に向けて、備蓄品を準備されている。地震についてのマニュアル作成をし、職員間で話し合っている。  |      |                                   |

| 外部                        | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |    |   |   |      |                                   |
| 28                        | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 食事摂取量や水分量を記録に記載してある。水分摂取に関しては、飲まない方には工夫した支援をしている。                               |      |                                   |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり   |    |   |   |      |                                   |
| (1)居心地のよい環境づくり            |    |   |   |      |                                   |
| 29                        | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用スペースは利用者各自が、思い思いに過ごせるように工夫されている。利用者の作品が飾られ、テーブルには趣味の塗り絵やきりえなどいつでも出来るようになっている。 |      |                                   |
| 30                        | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | 使い慣れた家具や化粧台など、利用者が持ち込み、家で過ごしていた時と同様に過ごせるよう配慮されている。                              |      |                                   |